

区部ユース・プラザ基本構想検討委員会
第5回 説明資料

令和6年9月5日

目次

意見のまとめ（イメージ）について

- 1 検討の背景について
 - 2 意見の概要
 - 3 今後の方向性について
- （参考）検討経過

1 検討の背景について

- ユース・プラザ事業は、青少年の自立と社会性の発達の支援及び生涯学習の振興を目的とし、広く都民の文化・スポーツ活動等の機会や場を提供してきた。
- 区部では平成15年度、多摩では平成17年度から開設し、特に区部ユース・プラザのスポーツ施設等は築48年程度が経過し老朽化が進んでいる。
- 一方で、障害者や外国にルーツのある児童・生徒の増加、不登校など子供・若者の状況が多様化してきている。さらに、近隣にスポーツや文化・学習関係の施設が存在するなど、外部環境が変化している。
- こうした状況を踏まえ、本検討委員会では区部ユース・プラザを中心にユース・プラザ事業全体について、新たに担うべき役割や機能、コンセプトなどの議論を重ねてきた。
- 「意見のまとめ」は、これまでの検討委員会の委員から出された主な意見を整理したものである。

【委員名簿】

氏 名	職 名
青 山 鉄 兵	文教大学人間科学部人間科学科准教授、国立青少年教育振興機構副センター長
朝 日 ち さ と	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授
五 十 嵐 誠	東洋大学経済学研究科公民連携専攻客員教授
岩 切 準	認定NPO法人夢職人理事長、公益社団法人「チャンス・フォー・チルドレン」理事
王 昌 宇	キュリー株式会社代表
倉 持 伸 江	東京学芸大学教育学部准教授
小 池 巳 世	都立北特別支援学校長

2 意見の概要（1）

【広域的な施設が担うべき役割について】

- 都が担う部分が広域的にフォローする必要があるかという観点は非常に重要。障害のある子のためのものとか、多様な人に対応するところは、一つ広域的な施設の売りになる。
- 基礎自治体でアプローチしにくい年齢層に対する部分に、特にサポートが必要。
- 多様なニーズに応じられること、高校生以上の年代に対するサポートを充実させること、宿泊機能も含めて多様な体験ができることは広域的な施設としては非常に重要。
- 高校生の研究に対する関心が高まっている中、必ずしも学校の中で研究等ができる場所が自由に使えるわけでは無かったり、サイエンス、テクノロジー、アートに関しては、まだ高校生が十分に活動できていないと感じる。そうした高校生たちや団体への支援が必要。
- 個人ではつながり合えなかったところを施設が橋渡しすることで、同様の興味関心を持った若者が集い活動していくことが、広域施設として非常に重要な役割ではないか。
- 地域の中だけでは解決できない青少年の問題は沢山あると思う。都だからこそ、枠組みや領域を越えて支援したり、出会う場や情報共有する場を作ったり、指導者と接することができるのでは。
- 学校や社会教育団体を繋ぐのは都だからこそできること。青少年や青少年を支援する人の学びや交流の場は、都が果たしていく役割だと思う。

2 意見の概要（2）

【新たな施設のコンセプト・目的について】

- 多摩が野外で区部が文化・スポーツというのではなくて上位の目標が必要というときに、単に教育とか成長だけではない、もう少し上位のコンセプトも入れ込めた方が今らしい。
- 都内のスポーツ・文化施設は多様にある。その中で、青少年の主体的な活動、体験活動の場の実現、ダイバーシティな社会を実現していくという上位コンセプトに組み替えていく必要はある。
- 上位の目的として、例えば「こんな〇〇な社会を若者と一緒に創っていくための施設」という社会像があって、そのためにこんな事ができるといった、フェーズを考えてみるとイメージがしやすいと思う。
- 若者たちが主体的に活動するのだというところは、やはりコンセプトとして残しておけるといい。例えば、今までなかった多様性、共生、エコ、そういった新しい価値観によって、若者と一緒に社会を作っていく場所なのだというスタンスのほうが良い。
- 都の施設として個々の自治体や団体ではできない体験を提供することや、宿泊的なもの、多様なニーズのあること、そこに都のネットワークなどいろいろな人と一緒に創っていくという価値が大きな目的の下に入ってくるのではないか。
- 青少年が自ら自立に向けてプログラムを作っていくところも、新たな考え方として反映できると良い。

2 意見の概要（3）

【機能について①】

- 障害のある子が、普段全然関われない人と関われるような、手助けの場や機能があると良い。
- 多様なニーズへの対応や、共生社会を先駆的に体験できることに加え、グリーンであるとか、環境面に配慮できている経験や体験をできる要素は重要。
- 新しい機会や貴重な機会が作られていく中で、施設を訪れる若者世代が熱中しているものや、好きから一步抜けている対象が何かこの場所であれば実現できる、もしくは体験ができる状態も必要。
- 「共創」ということで、若者と新しい価値とか活力を創造したいNPO、企業、基礎自治体、団体等で、若者の意見を聞いて次の施策に活かすことや、都政や将来の世代づくりに活かせれば、多様な若者が集まる東京ならではの像が描けるのではないか。
- 団体、もしくは作り手となる人たちが作れる場所と、高校生たち自身の意見や考え方を反映できる場所、この2つが備わっている状態が、ここでしかできない体験を生み出していくのではないか。
- 生活が相当厳しい状況の子もいれば、リーダーシップをすごく発揮している子もいるなど、色々な個人の状況があり、団体も同じ。個人とか団体の段階に応じた機会を共に創っていく施設であるということ考えた方がいい。

2 意見の概要（3）

【機能について②】

- できれば施設とある団体が社会課題に対して共に宿泊機能やネットワークを活かして解決を目指していくとか、または個人の方々がこういった課題があるというところをスタートしていく機会を提供できるような、共創が生まれる施設として考えていけると良いと思う。
- 複数の団体がこの施設を利用し易く、場を作り易いような多目的で設計されている施設が必要ではないか。一つ目は施設として様々な団体が利用し、多様なイベントを開いたり、何らかの支援を施設で行う形。二つ目は情報提供の場所で、様々な団体の情報を提供する形が考えられる。
- 周辺の施設や団体をうまくネットワークを作りながら、施設の外と繋がるハブになるような機能を、人とセットで持たせていくことが重要になると思う。

2 意見の概要（4）

【区部と多摩について】

- コンセプトは共通で、持っている引き出しが違うのだという棲み分けにしておくほうが、文化・スポーツのための施設と野外のための施設があるという区分けよりもスッキリするのではないか。
- 地域の環境や持っている施設が違うので、ここでしかできない体験の中身が違うことが各施設の特徴になる。
- 区部と多摩それぞれの周りで活動している団体を活用した特色があると思う。団体によって、その施設の特色が変わってくると思う。
- 両施設とも体験活動は大事だが、多摩は自然、区部は都市型という違いがある。
- 区部ユース・プラザは一つの団体が一つのことをやっていくのではなく、色々な団体が同時多発的に多様なイベントを行っていくことで、お互いのことを知り、新たな共創が生まれていく。複数の団体が連携・交流しながらきっかけを作っていく場所ではないか。
- 現在の多摩ユース・プラザでは、施設の中で全ての活動や体験学習を完結させようという風に感じられるが、より広域に周囲を巻き込み、多様な体験ができるような形になると、体験の幅がより広がっていくのではないか。
- 高校生たちが、個人的に多摩ユース・プラザに行って、色々な学校の子たちと一緒にボランティア活動という形で、自然にまつわる環境整備などをやってみる機会はとても良い。

2 意見の概要（5）

【運営について】

- 多様なニーズとか専門性を広域的にフォローしていく上では、都が全て担うというより、それぞれのところで専門性を持ったNPO等と組んでやっていくことが前提にならざるを得ない。
- 利用者のターゲットになっている方に何を生み出せるかということをコーディネートしていく団体というのが、こういう施設には不可欠になっているのではないか。
- 専門的な役割があるNPO等と繋がり、上手くコーディネートできる主体が必要なのではないか。
- コミュニティマネージャーの存在が必要と思う。色々な団体、新しい団体との交流を促進させていき高校生たちも関わりやすくなっていくような役割が必要ではないか。
- 専門性自体が細分化されていて、高度化しているのが現状。そういう意味では、ソフトの事業者が一社で、すべての専門的なところを担っていくのは不可能。
- 交流の促進の部分や、新しい事業とか考えを作っていく上でどうやって施設と融合させていくのかの部分は、高校生や大学生でもできる範囲があるのではないか。メディアを通して発信していきながら若者からの意見を取り入れて、若者たちがそのコミュニティの中の運営を担っていくような組織形態が実現できるのではないか。
- 運営体制の中にアウトリーチ的な機能みたいなものを組み込んでいけると良い面もあるかと思う。
- 団体が得意な分野は異なるため、相互補完しながら一緒に進めることは、一つの共同体として非常に面白く、相互の交流も図れる。

3 今後の方向性イメージ

以下は、事業の方向性のイメージについて、委員から出された意見を整理したものである。

コンセプト

子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設

⇒ 専門性をもった様々なNPOや地域・学校との接点となり、子供・若者と一緒に社会を創っていく施設

目的

- ・ 多様な子供・若者の自立や社会参画を支援
- ・ 共生社会の実現に向けた社会全体の取組を促進

機能

- 子供・若者に多様な体験学習を提供
- 子供・若者の自主的な活動・交流の機会や場を提供

⇒ 多様な活動を通して子供・若者の自立への意欲が高まり、成長に繋がる

- 担い手となる様々なNPO・団体等が参画・交流し、情報交換等を行う機会を提供

⇒ NPO間での連携促進や地域活動への還元を通して、社会全体の動きに繋げる

※区部・多摩地域は同じコンセプト等に基づき、立地環境などそれぞれの特色を活かしていく。

【参考】 検討経過

	日 程	内 容
第1回	令和5年6月30日	○検討委員会設置の背景 ○区部ユース・プラザの概要と現状
第2回	令和5年10月5日	○ユース・プラザの概要と現状 ○現行のユース・プラザの機能と事業内容 ○ユース・プラザが担うべき機能・役割、必要性
第3回	令和6年2月6日	○現状の機能及び周辺環境 ○施設が担うべき新たな役割の検討
第4回	令和6年3月4日	○新たな施設の機能等 (新たな役割、目的及び機能、区部・多摩の特色、運営について)
第5回	令和6年9月5日	○検討委員会のまとめ